

## 11. キャリアサポートセンター

### 1) 平成18年度の就職環境考察

平成17年度と比較し、平成18年度は景気回復基調を受けて、企業の採用意欲が高まり、求人活動の活発化、早期化が顕著となった。このような環境下、例年大半の学生が長期に渡る就活を余儀なくされてきたが、本年度は4月～5月にかけて内定を確保した学生が増えた。しかし反面、人気のある企画職などの職種や航空、ホテルといった業種に固執する学生も増えてきており、就職内定率は向上してきているが、一部の学生には内定に結びつかない状況も続いている。明らかに企業の採用意欲が高まってはきたが、大きく採用拡大傾向にある職種としては営業職及びSE職（システムエンジニア）である。

今後の課題としては、学生の希望職種、業種と求人増のある業種、企業の求める職種との需給ギャップをいかに埋めていくかということである。その為に、昨年度より本格的に始めたインターンシップなどの充実、学生の「仕事に対する理解や多くの職種を研究する機会を作る等で学生の就業意識を広げていくことが重要となってくる。

### 2) キャリアサポートセンター 中長期重点施策について

その場しのぎではない業務の品質を向上することを目的として策定している中長期計画は、平成17年度を基点とし第一ステップとして3年間、その後レビューを行い、第二ステップ3年間の一連の重点課題の施策提示を行い実施していく。

- 1：学生個人指導方式の導入，早期キャリア開発シートによる目標設定と計画の実施。
- 2：各ゼミと協調し，学生の就職意識高揚と就職対策（ミニ講座等）などを図る。
- 3：学部の方向性(総合政策学部：公務員養成，外国語学部：職業を意識したコースによる育成，保健学部：資格取得)に対し連動強化。
- 4：就職戦略として，サービス産業，営業職部門をターゲットに加える。  
学生の意識，職業に対する啓蒙を計る特別講座を開講し育成を行う。
- 5：インターンシップ制度を重点課題とし拡大充実と円滑な就職に結びつけることを目指す。

第一ステップとして、学生との個別指導を視野にいれ、ゼミ出張講座を積極的に進めた。結果、平成18年度は全体の75%にあたる48ゼミで就職講座を実施し、その後の学生への直接指導に結びついた。

また、学部の方向性に連動した資格講座、公務員講座や企業研究（ジョブカフェ）を開設し、学生の主体性と基礎的な知識を図るとともに、企業人との接点により業界・職種研究の必要性を認識することができた。

### 3) 18年度，就職内定率

保健学部	93.1%	(前年度 92.8%)
総合政策学部	93.6%	(前年度 89.0%)
外国語学部	94.7%	(前年度 86.0%)

#### 〔評価分析〕

保健学部は若干ポイントアップであるが、進学を除くと100%就職の実績を保ち好調に推移している。特に看護系は病院関係からの需要が多く、むしろ学生から見れば選択しやすい環境であるといえる。

総合政策学部は昨年比約5ポイントアップと2年連続内定率がアップしている。全体の約40%が小売業・卸売業であるが、情報通信及び金融業界への進出が増加した。職種としては営業職が大半を占めている。

外国語学部は昨年比約8ポイントアップという好結果につながった。これは、従来のサービス業の他に小

売業・卸売業への進出が約32%と増え、学生の視野が広がってきていることを示している。航空・ホテル・旅行業界は相変わらず狭き門であった。

## 4) 18年度課題と評価分析

### 1) 個人指導方法計画の推進

学生個人の就職に対する目標はそれぞれ異なり、また備えている能力、パーソナリティも違う。従って個々の学生の目標を達成していくためには、一人ひとりの学生の状況に合致した援助・育成がなされないといけない。この考えに基づいて、課題達成のための施策を講じてきた。

実際に行った施策は

- ①低学年よりキャリア形成意識の醸成を図り、個々の学生に付加価値をつける。

実行した施策は、

イ：学内資格取得講座9講座を開講した。講座は、低学年からの受講もできるようレベル順に開講したため参加率も増えた。また、パソコン講座1級資格講座では18年度1年間で77名が合格している。

ロ：e-Testingではネット配信方式の実力向上の実技試験訓練システムを導入。本学学生の課題である基礎能力を補うには一番利用しやすいもので、現在50名が申し込み活用している。今後利用者をさらに拡大すべく、窓口、掲示板やHPを利用して積極的にPRしていく。

この問題集は、SPI、一般常識テスト、その他就職筆記試験に関連する問題が網羅されており、パソコンがあれば何処でも利用できる便利なツールである。

- ②実質的就職率向上を目指し、学生個人指導の徹底と組織的な就職先開拓推進

イ：ランチタイムサテライトインフォメーションの見直し

八王子キャンパスの各部署がタイアップして、平成17年後期に、昼休みの時間帯を利用した学生相談を実施した。平成18年度4月～7月にかけて合計12回開催（会場は食堂）し、延べ7名の学生の相談に応じた。相談件数が前年度（20名）より低下した理由として、①場所の問題、②昼食時間内、ということであった。

そこで、学生の相談し易い環境を考えた場合に、各部署で実施したほうがより効果が上がるのではとの判断になり、平成18年度後期から、それぞれのセクションで開催することとした。

ロ：業界・企業研究（ジョブカフェ）の開催

ランチタイムサテライトインフォメーションを抜本的に改善し、公務員や企業の採用担当者を招いて、業界・職種・企業研究を学生向けに実施した。（名称はジョブカフェ）

現役の警察官・自衛官及び消防官それに企業の採用担当者から、業界に関すること、業務や採用内容等を直接聞くことで、その公務・企業の中身が判り、学生にとって企業等を選定する上での一助につながった。

平成18年10月～12月までの利用者は、述べ113名で前期に比較し格段の参加増になった。

- ③文系2学部ゼミとの連携、ゼミに於いて就職支援講座を開講

ゼミに於ける講座の開講には、「就職情報を個々に伝達」、「学生と2-Wayコミュニケーションで応じられる」「就職環境変化がリアルに伝えられる」等々、その効果は絶大である。

18年度は、文系2学部48ゼミ（実施率75%）からの要請を受けて実施。この施策は、教員と職員領域による相互理解による協調路線は、他大学では見られない施策であり、この体制を継続して学生個人々々を育成して行けば、職業意識の向上は基より、低学年からの育成計画の実現など、期待される効果は大きいものとする。

## 11. キャリアサポートセンター

### ④キャリア開発シートの活用による計画とアクションプランの推進

学生個人の育成計画は、本人の自覚が基本となる。このキャリア開発シートは本学独自に開発したシートで、このシートの内容は、学生が望む職種とその職種（又は企業）が期待する実力の差を分析し、そのギャップを埋める為に、本人自身が何時までに、何を、どのレベルまで達成させるかのアクションプランを作成し、実行に結び付ける一連の計画を記入するシートである。

このシートを基準に、学生のフォローを実施する事によって、目標に向かっての進捗確認と指導が徹底できる。但し現時点では3年生の活用が多く、時間軸としてレベルアップに間に合わないケースが多い。低学年の活用を進めるのが次年度としての課題である。

### ⑤インターンシップ

平成18年度インターンシップは、国内・国内合計79名（前年66名）を民間企業、市役所、施設及び海外の企業等々に派遣した。派遣学部は、総合政策学部及び外国語学部で、それぞれの学部の特徴に合致した企業に学生の派遣ができた。

次年度課題として、インターンシップが学部によって必修化されているため受入企業の開拓が最優先であり、引き続き企業に対して協力依頼を推し進めていきたい。